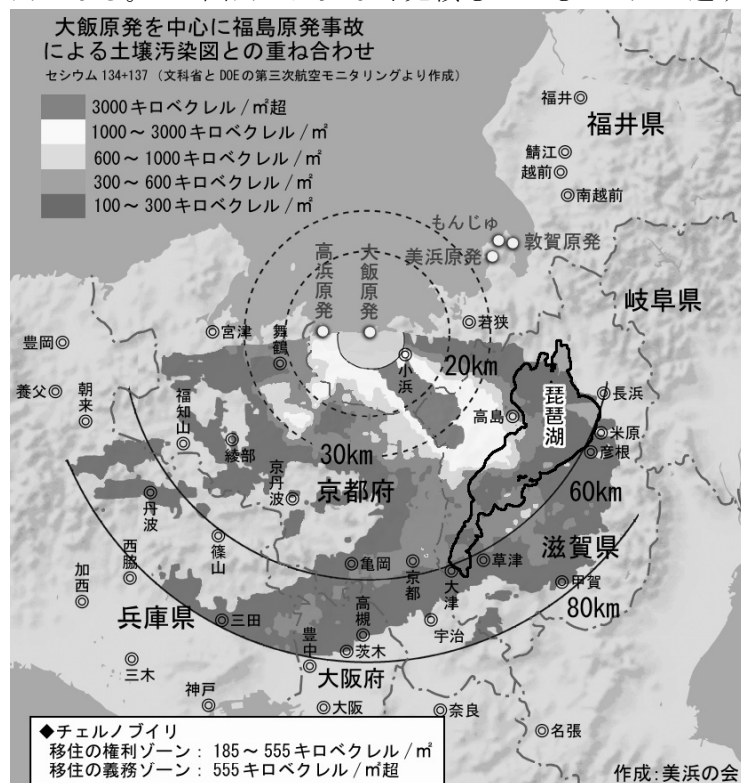


福島原発事故の実態が教える、若狭の原発事故がもたらす甚大な被害

福島原発事故を踏まえ、原子力安全委員会は原発から半径 30km 圏内を「緊急防護措置区域」に設定するの方針を打ち出している。ヨウ素剤配布は 50km になるという。右図は若狭の原発から 30km、50km 圏を示している。福井県では、おおい町や小浜市、若狭町、美浜町、敦賀市の全域、京都府では宮津市や舞鶴市の全域と綾部市の大部分が 30km 圏に含まれることになる。滋賀県では、高島市、長浜市の北側半分が 30km 圏内。琵琶湖も一部圏内となる。敦賀市の人口は約 6 万 8 千。美浜、大飯、高浜は各々およそ 1 万。若狭町 1 万 6 千、舞鶴 8 万 9 千、宮津市 2 万。これらの合計だけでも、20 万人を超える。

50km 圏の場合、福井県では南越前町(1 万 1 千)、越前市(8 万 5 千)、鯖江市(6 万 7 千)から福井市全域(2 7 万)まで、京都府では福知山市(8 万)など北部全域と京都市の一部まで圏内となる。滋賀県では、琵琶湖の半分以上が範囲内となる。50km 圏内には少なく見積もっても 100 万に達するような人口が含まれているだろう。



しかし、実際に若狭の原発で事故が発生すれば、その被害範囲はこれにとどまらない。左図は、大飯原発を中心に、福島原発事故による土壤汚染図を重ね合わせたものである。若狭一帯から京都府北部、滋賀県の湖西側一帯が、ひどく汚染される。さらには、チェルノブイリの移住の権利ゾーン、移住の義務ゾーンに該当するような汚染範囲が、50km 圏をはるかに超えて広がっていることがわかる。その範囲は、南側では京都市全域を含み、高槻、茨城、豊中といった大阪北部地域にまで達している。滋賀県側では大津市や草津市を含めた主要都市を覆い、琵琶湖全体を飲み込み、湖東側をはるかに超えた地域にまで伸びている。琵琶湖は周囲を山地と森林に取り囲まれ、そこに降り注いだ雨水は、大小百以上の河川となって琵琶湖に流れ込む。このことは、琵琶湖が巨大な放射能の汚水貯めと化すことを意味している。琵琶湖は近畿 1 2 0 0 万人の水源地となっており、その影響は計り知れない。福島原発事故の深刻な実態は、ひとたび事故が起これば、近畿圏でも取り返しのつかない被害がもたらされることを教えている。